

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4290101155		
法人名	有限会社 品川企画		
事業所名	グループホーム みなとのみえるハウス ユニット 宝		
所在地	長崎県長崎市川上町30-1		
自己評価作成日	令和 3年 10 月 15 日	評価結果市町村受理日	令和4年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 3年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みなとのみえるハウス」その名の通り、長崎港が一望出来、風光明媚な中に建っている。看取りについて、ホーム全体、スタッフ全員で取り組んでいる。ホームに関わる医師や看護師、及び介護用品業者の方々も同様である。入居者の方々にとって、ここが「終の住処」をモットーとしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全居室から港を一望できる立地は、事業所の自慢の一つである。職員は先代社長の想いに共感し、今日まで理念を大切に引継いでいる。外部評価の結果を真摯に受け止め、職員自ら取り組んだ内部研修では、マナーを基本から学び直している。年2回の人事考査では、自己評価を基に代表と面談を行い給与へ反映する他、希望休も取得できる等、働き易い職場環境である。アセスメントシートは課題解決への道筋が確認でき、介護計画作成に全職員が関わっていることは特筆すべきである。日々の食事やおやつは、職員の手作りであり、誕生日や季節行事に限らず、旬の食材を使用し、心のこもった食事を提供し、好きな寿司を選び出前を取る等入居者の愉しみとなっている。入居者の体調に配慮し、できる限り皆で楽しむことを基本としており、車椅子から藤椅子やソファに移乗し、メリハリをつけた生活になるよう努めている。残されるペットと共に入居者を受け入れる等、一人ひとりの家庭環境にできる限り対応し、家族の信頼を得て、理念「その人らしい生活」の実現に努める事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時にスタッフ全員で唱和し、理念に添ったサービスが出来る様こころがけている。	職員は先代社長の想いに共感し、代々理念を引き継ぎ、開設から現在に至っている。新人職員は、ホーム長と先輩職員2人によるOJT研修の仕組みにて理念を理解している。特に尊厳に注視し、入居者が穏やかに楽しく暮らせるよう「協働」のスローガンの下、理念の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や地域の行事など、交流を行っているが、今年はコロナ禍である為、行事の交流は控えている。	事業所は交流が盛んな地域にあり、事業所の夏祭りや地域の災害訓練他行事を通し、入居者と地域住民の交流の場を設けている。新型コロナ禍以降、ホーム長は地域との交流を絶やさぬよう、自治会会合に参加する他、消防団員と挨拶を交わし、顔の見える関係作りに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、日頃の取り組みを発表させて頂いたり、医師会主催の事例発表の研修会でも、取り組みを発表させて頂いたりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、利用者やサービスの実際評価への取り組み状況などについて、報告や話し合いを行い、意見をサービス向上に活かしている。	開設当初からの地域知見者や家族等、多数の委員で構成し2ヶ月毎に開催しており、行事報告、職員研修や事故報告の他、意見交換の場となっている。新型コロナ禍以降は書面会議を行い、議事録を委員に送付している。ただし、議事録は報告に終っており、意見を汲み取る仕組みがない。	委員以外の家族にも、事業所の取組みや地域との交流の様子を伝えることが望まれる。また、議事録に対する返信等、意見聴取の工夫に期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表者が行って下さっており、連絡事項がある場合は、代表者より連絡を受けている。	行政からの案内や情報は、本部を通して得ている。介護認定に関する書類手続きは、ホーム長が行政窓口で行っている。また、新型コロナ禍の新入居者受入時の注意点や感染対策の備品の不足に関して電話で相談し、回答を得る等協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束について話し合いをミーティングで行っている。個人を尊重し、差別や虐待を行わず、安らぎと安心感の持てる生活への支援に取り組んでいる。	各ユニット毎に年4回の委員会を設けており、事例検討にて職員周知を図っている。年1回、法人本部での合同研修他、毎月の内部接遇研修は、職員が議題を集約し、輪番制で委員となり全職員が意識を持って取り組んでいる。センサーは、家族の同意を得ており、検討を重ねている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎年、研修などのテーマになっており、学ぶ機会を持っている。又、日頃からスタッフ同士で意見を交換し合い、注意を払っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修のテーマに上がり学んだ事はあるが、今年はまだ、テーマに上がっていない。又、利用者に対してスタッフ1人1人が、それぞれの関係性を持ち業務を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者が契約時に、ご家族とお話する際に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも要望を受け付けられる様に、箱を玄関に設置している。また、直接ご家族から要望があった際は、要望書を作成し、反映させている。	玄関に家族からの要望を受け付ける箱を設置しており、昨年1件投函があり適切に対応している。遠方の家族も多く、日頃から電話やメールで連絡を取り合っている。また3ヶ月に1度発行するホーム便りを送る際には、一人ひとりに手書きの手紙を添えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談にて、聴き取り、意見や提案等反映出来るように努めている。	ホーム長は、日頃から職員の悩みを聞き取っている。また年2回職員の自己評価を基にホーム長や社長が面談しており、要望や意見を吸い上げる機会が多い。代表は、職員の資格取得を推奨しており、多数の有資格者がいる。会議では、問題解決に向けて全員の意見を表出する仕組みを構築しており、風通しの良い職場環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望を全て取り込み、勤務調整をしたり、働ける勤務時間を聞いたりし、なるべく働きやすい状況を作れるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や合同研修は、年間を通して計画して学ぶ機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にあるので、交流は難しいが親しくしているグループホームや近隣のグループホーム等とは、連絡を取り合い、情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される時に、基本情報、24時間シートで不安な事、本人が困っている事、要望などに耳を傾けながら安心して頂ける様、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所されてすぐに本人様だけでなく、ご家族にも聴き取りを行い、ご家族との話の中から不安な事や困っている事、要望などを聴き、関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、担当スタッフを決め、どう言うサービスを行うべきか担当が軸となり、本人、家族の話に耳を傾け、他スタッフへと共有し、利用される方、ご家族がどんな事を望んでいるのか、どんな支援を必要とされるのか、出来る出来ないをしっかりと見極め、サービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームに入る前の生活の延長として、日常生活掃除、洗濯物たたみ、食事の下ごしらえ等、一緒に行い暮らしを共にしている気持ちで接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活はどんな風にされているのか、現在はどんな状況なのかを月に1度、お手紙でお知らせし、ご家族との関係を築いている。又、3ヶ月に1度、日常の生活を新聞にてお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で面会の制限があり、なかなかご家族ともお話しが出来ないが、ガラス越しであったり、電話でのお話しが出来る様に努め、そのままの関係が途切れない様に支援している。	入居の際、家族が記載した入居者の生活歴を基に、趣味や歩んで来た人生を把握している。新型コロナ禍の現在は、家族とはガラス越しや玄関先での面会を行っている。入居以前に飼っていた猫と暮らしている入居者や趣味の編み物を続けている人もいる。雑誌の差し入れをする家族もあり、入居前の習慣を尊重する支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティや生活リハビリ、行事などで、利用者同士が孤立しない様、全員で出来る事や場の提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後でも、運営推進会議やホームでの行事へご招待するなど、関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望は無理があり、「帰りたい」等外出できる事がコロナ過で出来ず、屋上や駐車場に出る事で気分転換を行ったり、出来る限りその方、その方の要望を叶える様なケアに努めている。	発語困難な入居者は、表情の微妙な変化を読み取っている。介護度の高い入居者には、職員は声掛けを絶やさないよう心がけている。本人の思いを汲み取り、申し送り等で共有化を図っており、焼き芋を食べたい、家族の通夜に参列したい、墓参りに行きたいといった思いを実現した事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境など、昔話から「昔はこうだった。」「この時はこうしていた。」などで、生活リハビリやアクティビティに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング、ミニカンファレンス等で状態の変化がある利用者について話し合い、スタッフ間で状況を把握し、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで利用者の現状の意見を出し合い、必要とあれば医師に相談し、介護計画を作成し、2度3度と掘り下げ、介護計画を作成してご家族の意見やアイデアを取り入れている。	毎月の定例ミーティングやミニカンファレンスで入居者の現状を把握し、担当職員が仮プランを作成している。全職員でチェックを行い、ケアマネジャーが最終確認を行い、本介護計画を作成している。家族に郵送し、了承を得て実践している。計画の見直しの度に作成するアセスメントシートは、課題解決への道筋が確認できる形式である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子、その時々々の工夫や様子など記録に記入し、スタッフ間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族のニーズの中に、ホームで出来る事であれば、柔軟に対応している。又、本人をよく観察し、意見を出し合い、私たちの言葉で必要に応じ、支援やサービスの向上にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症の方が家庭的な環境の下、共同生活ができ、地域の社会資源との連携を図り、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はホームに入所される際、かかりつけ医を希望されるか、ホームのかかりつけ医に受診するのか話をしている。専門医を必要とする場合は、医師や上司に相談している。	かかりつけ医受診を尊重しており、他科も同様に職員2人体制で通院を支援している。協力医の月2回の往診や訪問歯科の週2、3回の口腔ケアの他、訪問看護師、非常勤看護師による日々の体調管理を行っている。受診結果は家族に伝えている。緊急時は、看護師と医師、協力医療機関との24時間連絡が取れる体制を確保している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護師が訪問されるので、利用者の体調の変化や気付いた事を報告・相談しており、必要に応じ、受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネが中心となり、病院関係者と情報交換を行い、本人が元の生活に戻るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や利用者の状態の変化時に、ご家族とケアマネ、医療機関とで話し合いを行い、今後の方針を決め、支援に取り組んでいる。	契約時に重度化やターミナルに関する指針を基に、家族に説明を行い同意書を得ている。入居者の体調変化時に、家族の意思を確認し、医師を交えた話し合いを重ね、今年度2例の看取りを行っている。職員は常に敬意を持って、本人・家族が望む終末期支援にチームで取り組んでいる。ホーム長は、職員の心のケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で毎年行っている。又、日頃から利用者の様子観察に努め、少しでもおかしい時は、早目に対応する様に心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	日頃から火災を防ぐ為の行動を心掛けている。(掃除など)災害時の手順は作成しているが、火災時以外の訓練の実施が出来ていない。	今年度は、地区の災害訓練に職員と入居者数名が参加している。その際、消防団に事業所の様子を伝えている。自然災害は、建物内に留まることが安全としており、備蓄や入居者情報等整備している。毎月の予告なしの自主火災訓練では、通報や入居者の避難誘導を行っている。ただし、夜間専従の訓練参加はこれからである。	毎月の自主火災訓練の内、夜間想定を4回行っており、そこに夜間専従の職員の訓練参加が望まれる。また、新型コロナ収束後、消防署立会い訓練の再開に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が気にされる事は、周りに他の人が居ない場所で声掛けしたり、1人ひとりのプライバシーに配慮し、支援を行っている。	前回の評価結果を真摯に受け止め、毎月実施する内部研修の殆どを接遇の内容に改定している。職員の言葉遣いや入居者への接し方に関して、チェックリストを作成している。便りに掲載する写真に関しては、書面で家族等の許可を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフは、提案するような声掛けをし、最終的に本人に選択して頂くよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人1人のペースを大切にし、休みたい時は休んで頂いたり、その方の意見を尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選べる方は、自分で選んで頂いている。毎日、整容、整髪を行い、介助がいる方には、洗面タオルやクシで整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「これは美味しいですよ。」「これ、食べてみませんか？」など、声掛け会話をしながら食事を摂っている。利用者と一緒に食事の盛り付け、配膳、片付けなどを行っている。	調理専門の職員を配し、献立を作成している。入居時にアレルギーの調査を行い、代替食で対応を行う他、キザミ食、トロミ食も可能である。正月は手作りのお節に刺身、誕生日は本人のリクエストの献立が並ぶ。出前を取ることもある。入居者は、下ごしらえや後片づけにも参加し、バラエティに富んだ食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量をチェックし、水分も1500mlを目安に摂取して頂くように表にまとめ、記録にしている。食が進まない方には、食事形態を見直し、その方に合った食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び毎食後は、1人ひとり自分で磨いた後を歯ブラシやスポンジブラシ、舌ブラシ等を使い、その方に合った方法で口腔ケアを行っている。又、定期的に歯科の往診をして頂き、口腔内の衛生に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表で排尿パターンを把握し、トイレ誘導や、声掛けを行い、極力トイレにて排泄を促している。	ホームの方針としてポータブルトイレは、使わずトイレでの排泄を基本としている。入居時には、ポータブルトイレを利用していた入居者がトイレを使うようになった事例がある。またパンツの種類やパッドの大きさも入居者一人ひとりに合わせて、職員が細かく検討を重ねており、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を1500cc位飲んで頂いたり、体操やアクティビティ等で体を動かし、座りっぱなしにならない様に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の範囲内で入浴が出来る様、声掛けながら行っている。どうしても入りたくないのであれば、時間をずらしたり、日を改めている。	週2、3回、入浴の支援を行っている。リフト浴も備えており、浴槽に浸かることができるよう支援している。同性介助を基本としている他、入浴を嫌がる入居者には、時間を置いて声掛けし、本人本位の支援を行っている。ゆず湯や菖蒲湯で季節感を大切にし、入浴が楽しいものとなるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れず、日中、傾眠される時は、日中に休まる様に休息時間を摂って頂き、夜間、まだ眠くない方を無理に寝てもらふ事はせず、リビングで過ごして頂いたりして本人の寝るタイミングで寝て頂く等、1人1人の生活に合わせ、休みたい時に休んで頂き、温度調整し、安心して気持ちよく休んでもらえる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬リストのチェックを行っているが、全部を理解は出来ていないのが現状。服薬の間違いが無い様複数人でチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手先が器用な方には、縫い物をお手伝い頂いたり、細かい事が難しい方には新聞たみをして頂いたり、1人1人の出来る事を願っている。日常に張り合いが持てる様、出来る事を見つけて、同じ人ばかりにならないよう声掛けを行い、役割や楽しみなどに繋げ気分転換を行い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて外出する事が出来ていない。コロナ禍になる前は年中行事を行い外出していたが、現在は、ホームの駐車場や屋上で散歩や日光浴、草むしりなど行っている。	新型コロナ禍以前は、花の名所へドライブへ出かけたり、ランタンフェスティバル見物に出掛けている。現在は、駐車場で弁当を食べたり、眺望の良い屋上を活用した日光浴、手作りの団子持参でピクニック気分を味わっている。また、ランタンフェスティバルの時期には、中華料理で雰囲気盛り上げる等、さまざまな工夫を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していないと不安な方や持っておきたい方には、お財布の管理をスタッフがしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からのお手紙は、本人に渡し読んで頂いている。また、電話についても、ご本人とお話しが出来る様取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関には、季節のお花が飾ってあったり、季節の果物や食材があったり、季節感を取り入れている。	玄関の生花や壁の写真と季節の飾りは温かな雰囲気であり、眼下に港を一望できるリビングは、開放感がある。童謡や懐メロ曲が流れ、入居者は、車椅子から、ソファや藤椅子に移乗し、皆で集う様子が確認できる。感染予防の消毒や換気も充分に行い、職員による毎朝の清掃で、臭気もなく、清潔な環境で寛ぐことができるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者と士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で過ごしたい方には1人で、誰かと一緒に過ごしたい方には気の合う方と過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談し、入居前や入居後に長年、愛用されている物など持ってきて頂き、本人がご自分の居室だと分かる様、使い慣れた物を置き、過ごしやすい様にし、それぞれに落ち着ける空間づくりを心掛けている。	全居室が港を一望できる造りとなっている。職員の毎朝の清掃他、大きなクローゼットには、衣類や排泄用品等収納でき、清潔ですっきりとした設えである。使い慣れたテレビや椅子、ソファの他、家族写真や雑誌、ぬいぐるみ等入居者が落ち着けるよう家族が持ち込んでいる。面会制限時は、窓越しに家族と面会できるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物を排除し、安全に配慮した生活を送れる様に工夫している。又、場所が分かるよう言葉や目印をつけている。全面バリアフリーになっており、安全な環境づくりを心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記号)】			
事業所番号	4290101155		
法人名	有限会社 品川企画		
事業所名	グループホーム みなとのみえるハウス ユニット 心		
所在地	長崎県長崎市川上町30-1		
自己評価作成日	令和 3年 11 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 3年 11 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みなとのみえるハウス」その名の通り、長崎港が一望出来、風光明媚な中に建っている。看取りについて、ホーム全体、スタッフ全員で取り組んでいる。ホームに関わって下さっている医師や看護師、及び介護用品の業者も同様である。入居者の方々にとって、ここが「終の住処」をモットーとしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和して職員1人1人が理念を理解し協力し合って同じ目的を持ち、統一したケアを行える様にしている。定例ミーティング等で理念に沿った業務を行うにはどうしたらいいか話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で以前は出来ていた地域の方を迎えての交流は殆ど出来なくなっている。開設当初から自治会に加入し、繋がりを持ち防災訓練等にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により、ご家族や地域の方の交流が難しくなっているが、施設見学や入居の相談などは随時受け入れ、認知症の人の理解や支援の方法なども含めて相談・質問などに応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて出席者の質問・意見により施設内だけでは気付きにくい業務の不備や改善点を聞き、全員で検討し前向きに取り組んで改善してきた。現在はコロナ禍により書面提出にて会議を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、必要な情報や指導について密に連絡を取り、連携を図っている。ボランティアの受け入れや市町村からのアンケート、その他の要請についても極力対応して、協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度の身体拘束廃止委員会にて全職員で拘束がなかったか等話し合う機会がある。センサーマットの設置については状況に応じて、本人・ご家族の了承のもと実施している。施錠も防犯の為の施錠のみである。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止の研修会を行い、皆で改めて勉強・理解する機会があり、虐待にあたる行為がないか確認し合い認められた場合には、指摘し注意するようにし、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や、成年後見制度について学ぶ機会がない。権利擁護に関する諸制度について、学ぶ機会・必要性の理解について不十分な所がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にケアプランをご家族様に説明しケア内容について納得しサイン、印鑑を頂きサービス内容など不安や、疑問点を解消するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様に直接意見を聞いて、ご家族様・外部の方にはフロアに投函箱を設置し、不満等はないか尋ねるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個人面談で全職員の意見や、提案を聞く機会を設けている。(年2回)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望は基本的に全て取り込み、勤務の調整や勤務時間の協力をし、出来る範囲で働きやすい状況を作れるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や合同研修は、年間を通して計画をたて、学ぶ機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会で、また、近隣のグループホーム等と連絡を密に取っている。(コロナ禍にあるので、交流は難しい)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の困っている事、要望等を確認するようにしている。それをもとにケアプランを作成し同意を得てからサービスを提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の困っている事、要望についても確認する様にしている。入居の経緯や生活状況等の情報も活用する事で、家族の方が入居の際に、感じる不安を少しでも軽減出来る様に関係づくりに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前に、その時何が必要かを確認し導入時には、準備が整っているように努めている。家族様より、身体状態・精神状態を聞き把握しサマリーなども活用し必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と思い嬉しい時、悲しい時、楽しい時の感情を共有したり日常生活の手伝いをして頂いたり、何気ない会話を交わすことで、職員も入居者も一緒に生活している一員として捉えて頂ける様に心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族であるからこそ知っている情報を伺ったり、必要な物品を購入して頂くなど協力を仰ぐことで、共に支える関係を築けるようにしている。ご家族様とのやりとりで、本人様の日常を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍で面会や交流が難しい状況ではあるが、電話や手紙で職員が話を伝え関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性見極め、座る位置、過ごし方を考え、孤立がないよう努めている。会話の支援が必要な入居者には職員が間に入り会話を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍で現在では難しくなっているが、定期的な行事にお誘いしたり、運営推進会議への出席を依頼するなど、それぞれの状況に応じて関係性の維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者には今日、何をしたいのか・困っていることはないか尋ねて本人の意向、希望を反映させた1日が過ごせるように、自分達が出来ることを行うようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人・ご家族よりこれまでの暮らし方について情報を集め把握するようにしている。入居後も普段の生活の中で暮らし方について更に理解を深めるように、会話したりその人のこだわりなど新たな情報を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の過ごし方を尊重しながら、日常生活でのお手伝いや、言動、介助時の様子などにより、その人の有する力など現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となり多職員の意見・評価を踏まえながら、モニタリングを行い介護計画を作成している。作成は職員が中心であり家族と話し合う機会をほとんど作っていない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は介護者の発言や気づき、入居者の表情など細かく記入するようにしている。その中で特に改善や何らかの対応が必要な物については、ミニカンファレンスやミーティングで話し合い、共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身状態の低下や変化に伴って必要とするサービスが変わったり、生活習慣、趣味の継続の為に更に手厚いサービスが必要になるなど、柔軟な支援が適宜になされるように、ニーズの変化には注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて、地域の交流の機会が少なくなっており、施設内での生活が中心となっている。訪問診療など医療以外の地域資源については、把握、活用は不十分であり、協働を行なうまでには至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりかかりつけ医がいる方は本人・ご家族の希望を大切にして、入居後も継続して適切な医療を受けられるように、情報の提供・共有、送迎などの支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師は居らず、週1回の訪問看護がある。入居者の体調不良時は随時、報告、相談しており、定期訪問時には、体調の報告だけでなく、気付いたことや介護で生じた疑問なども相談して、体調が大きく変化する前に適切な受診、看護が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時には、担当看護師の協力が得られるように、面会の際、情報交換、相談を行なっている。また、ご家族とも協力して、必要な日用品を購入して届け、安心して治療を受けられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期の対応について聞き取りをしており、その後も、身体状況の変化（悪化）に応じて、対応方針を確認している。入居者や家族の希望をもとに、訪問看護やドクターネットも活用しながら、重度化、終末期の支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備え、AEDや心配蘇生法などの演習を受けたり、緊急連絡先を掲示している。また、出来るだけ急変前に対応出来るように体調の情報共有、事故報告書、ヒヤリハットの記入による再発防止への対応についても話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	家事や自然災害の避難計画を作成して、定期的な避難訓練を行っている。地域の災害訓練にも参加しているが、協力体制は脆弱であり、もっと強固なものにして行かなければならない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や虐待防止の勉強会を定期的に開催して入居者1人1人の状況に応じ、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なうことのない言葉掛けに努めている。また、介助の内容によっては、他者から見られたり、知られないように配慮して、プライバシーを確保している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話にて思いや希望を伺うことはあるが、具体的にどのように実現させて行くか持続的な話し合いの機会は少ない。また、自己決定するための判断材料となる情報や方法の提示と言った働きかけも不足している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまで職員の業務を優先した対応が度々あったので、散歩や塗り絵、家事の手伝いなど、その日どのように過ごしたいのか希望に基づいた支援を提供出来るように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされる方には化粧の手助けをするなどしておしゃれの支援を行っているが、身だしなみの支援については、目ヤニが付いたり、寝ぐせがあるなど基本的な所が出来ていないことがあり反省しないといけない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳の大部分を職員が行っており、入居者の能力を活かし、食事を楽しい物にするとの視点が欠けていたので、今後、改善して行きたい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日中の食事、水分量をチェックして、状況に応じて介助が必要な入居者には介助し、必要量を摂取出来るように支援している。また、その方が使いやすい箸、スプーン、持ちやすい食器などを選び、食事を食べやすい大きさに切るなどして、出来る限り自分で食べて頂けるよう支援もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアは欠かさず行っているが、自分で行っている入居者に対しての口腔状態の把握や観察、細かな介助については不十分な面がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いてそれぞれの排泄パターンを把握したり、トイレ誘導の声掛けを行っている。そして更衣の上げ下げや姿勢の保持など必要な介助のみを行う事で、失敗を減らし自立に向け、不安心配を軽減するように対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現状では下剤の服用が便秘の主な対応になっている。今後は散歩などの運動、便通に良い食べ物を提供、多めの水分摂取や腹部マッサージなど個々に応じたいくつもの予防、対応策を行っていくようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の入浴ペースに合わせて介助し、介助中も会話を絶やさないなど、入浴を楽しんで頂くよう努力している。しかし入浴日や時間については、他入居者との兼ね合いで希望に添えない時もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々のペースで休憩したり、のんびりと生活して頂くようにしている。夜間帯に安心して気持ちよく眠れるように日中の運動や日常生活活動に取組むように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬リストにて薬の目的・副作用・用量などについて確認している。新しく薬が処方された時には、服用後の経過観察にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリテーションをして頂き、役割意識や生活に活気が出るように支援している。又、展示物の作成や計算、ことわざのドリルなど楽しみながら気分転換できる支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出が難しいので、ホーム近くの散歩や外気浴、敷地内でピクニックを催すなどして、外出に代わる支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される入居者は、普段から現金を所持している。現在はコロナ禍で難しいが、外出、買い物の際にはご自身が好きな物を買うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があるときには、取り次いでいるが、積極的には電話の支援は行っていないのが現状である。手紙については年賀状や暑中見舞いを出すように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3ヶ月に1度季節にまつわる、展示物を作成して掲示したり花を飾るなどしている。そしてひざかけやエアコンによる温度調節、掃除により清潔さを保つ事で尾心地の良い空間を提供出来る様に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには入居者が自由に座れる椅子、ソファがあり自分の好きな場所に座って頂きテレビを観たり、入居者同士で会話をしたりと、思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の協力を得て、入居者が以前より使用していた家具や小物を揃えるようにして「自分の部屋」と認識して頂き居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りなど既存の設備に加えて、トイレや居室に目印(名称や名前)を書いたり、身体状態に応じてイスを変えたりするなどして入居者が「わからない」「出来ない」を減らし、必要最小限のサポートを行い安全面と自立に配慮した支援を行っている。		